

森林パトロール通信

令和5年7月発行 第2号

「五月女菴（十三湖）クリーン作戦」を実施しました

6月21日（水）、五月女菴国有林の海岸林において金木支署森林巡視員の会々員のほか、五所川原市職員等総勢53名が参加し毎年恒例のクリーン作戦を実施しました。

本活動は、不法投棄や日本海からの漂着ゴミ等の散乱が非常に多いことが問題となっています。防風保安林に指定されている五月女菴地区を中心に、十三湖の保護をはじめ、地域の保全に重要な役割を果たしています。

このことから、本活動を通じ保安林機能の維持・促進を図ること、また、不法投棄防止のPR活動及び、森林の有する多面的機能に貢献することを目的としています。

当日、風は穏やかなものの日差しが強い、そんなゴミ拾いには過酷な環境の中でも参加した皆さんは、「美しい海岸防災林」を取り戻そうと海岸に漂着したペットボトルや空き瓶、網などの漁具を拾い集めました。



今年は、ペットボトルやカゴなどプラスチック製品が多く、不法投棄されたと思われる自動車の部品もありました。火バサミでゴミ袋にそれらを詰め込み、軽トラック

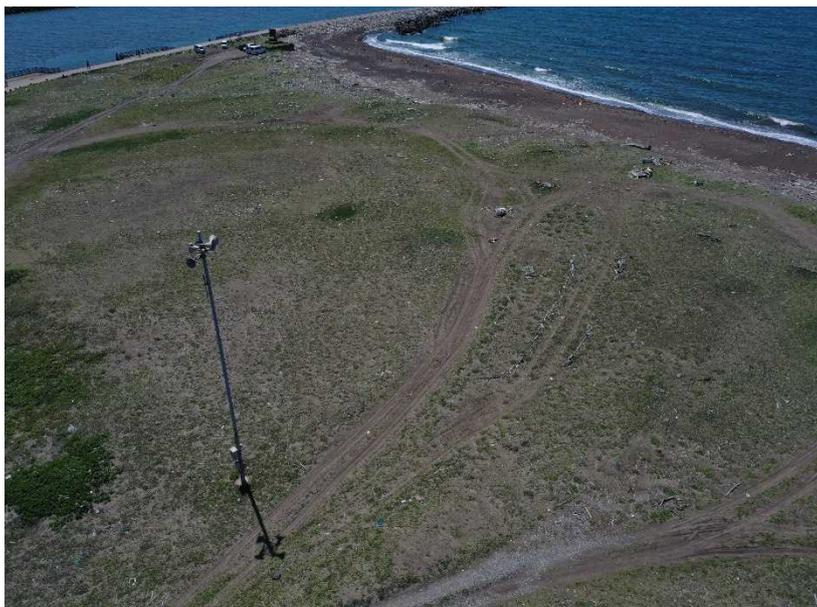
で収集し、一定の場所に集積した後、五所川原市のゴミ収集車へ積み込み、無事綺麗な海岸林にすることができました。

右の写真では多少わかりづらいかもかもしれませんが、上が実施前で轍のそばに白いゴミが散乱していますが、下が実施後でゴミの姿が見当たらない状況です。

このように目に見えて効果がわかることから、今後も地元自治体や巡視員の皆さんと連携しながら防風保安林の機能維持・向上に努め、「美しい海岸防災林」を後生に継承していきたいと思えます。

暑い中参加していただいた五所川原市職員の皆さん、森林巡視員の会の皆さん、津軽白神森林生態系保全センターの皆さん、森林技術・支援センターの皆さんには、心より感謝申し上げます。

また、来年度も同様に実施したいと考えておりますのでご協力をよろしく願いいたします。



「あすなる自遊モリ森」(遊々の森)

下刈・補植・測樹体験を実施しました

7月4日(火)、袴腰山国有林207と2林小班において、中泊町立中里中学校の2年生47人を対象に「遊々の森」体験活動の第2回目となる下刈・補植・測樹体験を実施しました。

冒頭、教頭先生から「中泊町は農業・林業・水産業の全てをコンプリートしている町。更に、SDGs(持続可能な開発目標)の15番、「陸の豊かさも守ろう」ということも考えながら今回の作業を行ってください」と挨拶がありました。

その後、生徒たちは道具の使用方法的説明や安全対策について指導を受け、10班に分かれ最初は奇数班が測樹作業を、偶数班が下刈・補植作業を行い、50分程度でそれぞれの作業を交代しました。

下刈作業は、生徒たちが昨年10月に植栽した「ヒバ空中取り木苗」箇所を支署スタッフの指導を受けながら下刈鎌を使用し、下草を刈り払いました。自分で植えた苗が順調に育っていることを確認し、間違えて苗を刈らないよう気をつけながら生長の阻害となる下草を一生懸命刈り払っていました。



また、補植作業ではあらかじめ支署で準備したヒバの山取苗を、みんなで協力しながら唐鍬を使用し各班2本ずつ植栽しました。

測樹作業は、胸高直径を測るための輪尺と樹高を測るための測竿及び測高器を使用しました。支署スタッフから使用方法の説明を受け、スギ人工林（74年生）の中から対象木5本（スギ3本、アカマツ1本、コナラ1本）をそれぞれ測樹し、野帳に記入しました。



生徒たちはそれぞれ、「この木はなんの木だろう?」「木の幅（胸高直径）の数値はこれでいいのかな」と、班の中で相談したり支署スタッフから助言を得たりして作業をしていました。



最後に、クラスを代表して2名の生徒から今回の作業に関する感想を発表してもらいました。

当日は日差しが照りつけ暑くなることが予想されましたが、作業を開始すると薄い雲が日差しを遮り、作業がしやすい環境でした。熱中症等による体調不良や、道具の使用によるケガもなく無事終了し、生徒たちはバスで学校へと帰って行きました。

◎編集後記◎

今回は、クリーン作戦と中里中学校2回目の森林教室についてお知らせしました。金木支署の「森林パトロール通信」のほか、東北森林管理局では広報誌「みどりの東北」を毎月発行し、局管内各(支)署の取組状況やイベント情報が掲載されています。東北森林管理局ホームページもぜひご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>

広報誌「みどりの東北」スマートフォン対応版はこちら→

